

# 北総と近隣の百庚申 ～多数建立の意図を探る～



匝瑳市大浦・路傍の  
飯岡石の百庚申



前原東5丁目の百庚申



鎌ヶ谷八幡神社の百庚申

## 庚申塔とは

庚申待は、60日に1回庚申の夜に、三尸が眠った人間の体から抜け出し天帝にその人の罪過を告げに行かないよう徹夜するという、中国の道教に由来した信仰でした。

室町時代ごろからは、各地で「庚申講」が行われ、**庚申供養塔**も建てられました。

中世は「板碑」、江戸時代初期からは、願文を刻んだ板碑型石塔や、**三猿**とともに如来や菩薩像を浮彫した石仏が作られるようになり、寛文期からは、**青面金剛**を**本尊**とする庚申塔も現れ始めます。

江戸中期には、青面金剛像に、日月や三猿（見ざる・聞かざる・言わざる）、邪鬼や鶏を伴う手の込んだ彫りの石塔が流行、またその憤怒の形相に悪魔退治の願いを込め、村の入り口などに建てられるようになりました。

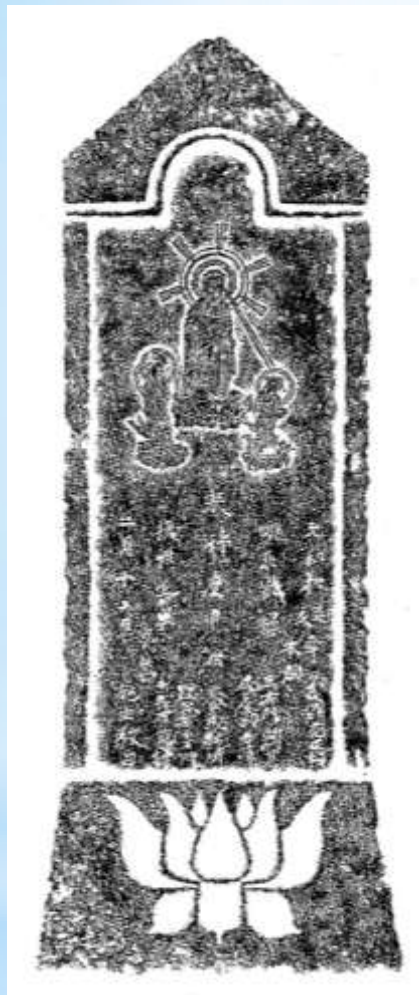


葛飾本郷の辻

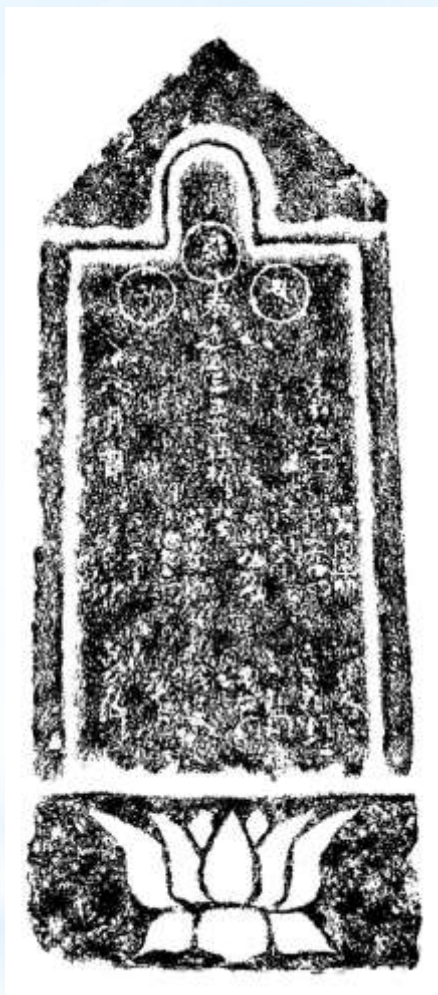
左上、寛文10年(1670)建立、薬師如来像庚申塔 右手前は享保20年(1735)青面金剛像塔

高根町神明社

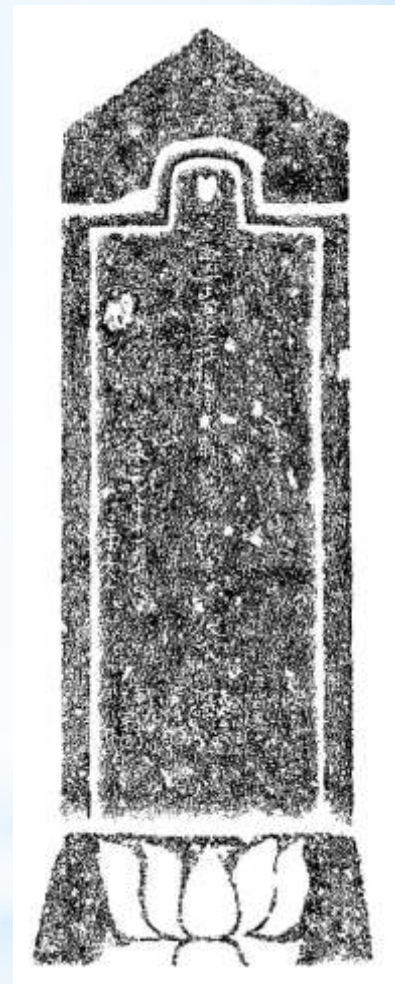
## 近世庚申塔の関東での初出



足立区正覚院  
弥陀三尊来迎塔  
元和9年（1623）



三郷市常楽寺  
山王廿一社文字塔  
元和9年（1623）



松戸市幸谷観音  
山王廿一社文字塔  
寛永2年（1625）

船橋近辺の庚申塔 I  
初期の三猿像を刻む庚申塔



八千代市高本八幡神社 万治3年(1660)  
「万治三天庚子十月吉日 為庚申待現當二世悉地成就処  
講人数十八一結諸衆 敬白」

船橋市最古の庚申塔  
鈴見町墓地 寛文4年 (1664)

古作町明王院 延宝7年(1679)

船橋近辺の庚申塔Ⅱ  
初期の如来・菩薩像を刻む庚申塔



佐倉市先崎 慶安3年(1650) 地藏菩薩像  
「奉造立庚申人数廿五人／先崎村／  
本願友野河内／慶安三天／庚寅／二月廿四日」



葛飾本郷路傍 薬師如来像  
寛文10年 (1670)



大神保町路傍 釈迦如来像 (日蓮宗系)  
延宝4年 (1676)

船橋近辺の庚申塔Ⅲ  
青面金剛像を刻む庚申塔 1



印西市砂田庚申堂内 寛文11年(1671)



佐倉市下志津原路傍  
延宝4年(1676)



八木ヶ谷王子神社 元禄2年(1689)

船橋近辺の庚申塔Ⅳ  
青面金剛像を刻む庚申塔 2



印内八坂神社 元禄11年(1698)



古和釜東光寺 宝永2年(1705)



東町不動院 宝永6年(1709)

船橋近辺の庚申塔Ⅴ  
青面金剛像を刻む庚申塔 3



葛飾本郷路傍 享保20年(1735)



高根町神明社 宝暦7年(1757)



本町3丁目覚王寺 安永5年(1776)



船橋近辺の庚申塔Ⅵ  
青面金剛像を刻む庚申塔（日蓮宗系）



元禄11年(1698) 前貝塚町 庚申塚  
「奉信敬帝釈天王一結之衆中願成辨／諸天昼夜帝為法故」  
2000年3月撮影

船橋近辺の庚申塔Ⅶ  
文字と三猿の庚申塔



印内路傍 文化11年(1814)



高根町神明社

## 前原東五丁目の「百庚申」が並ぶ風景 I



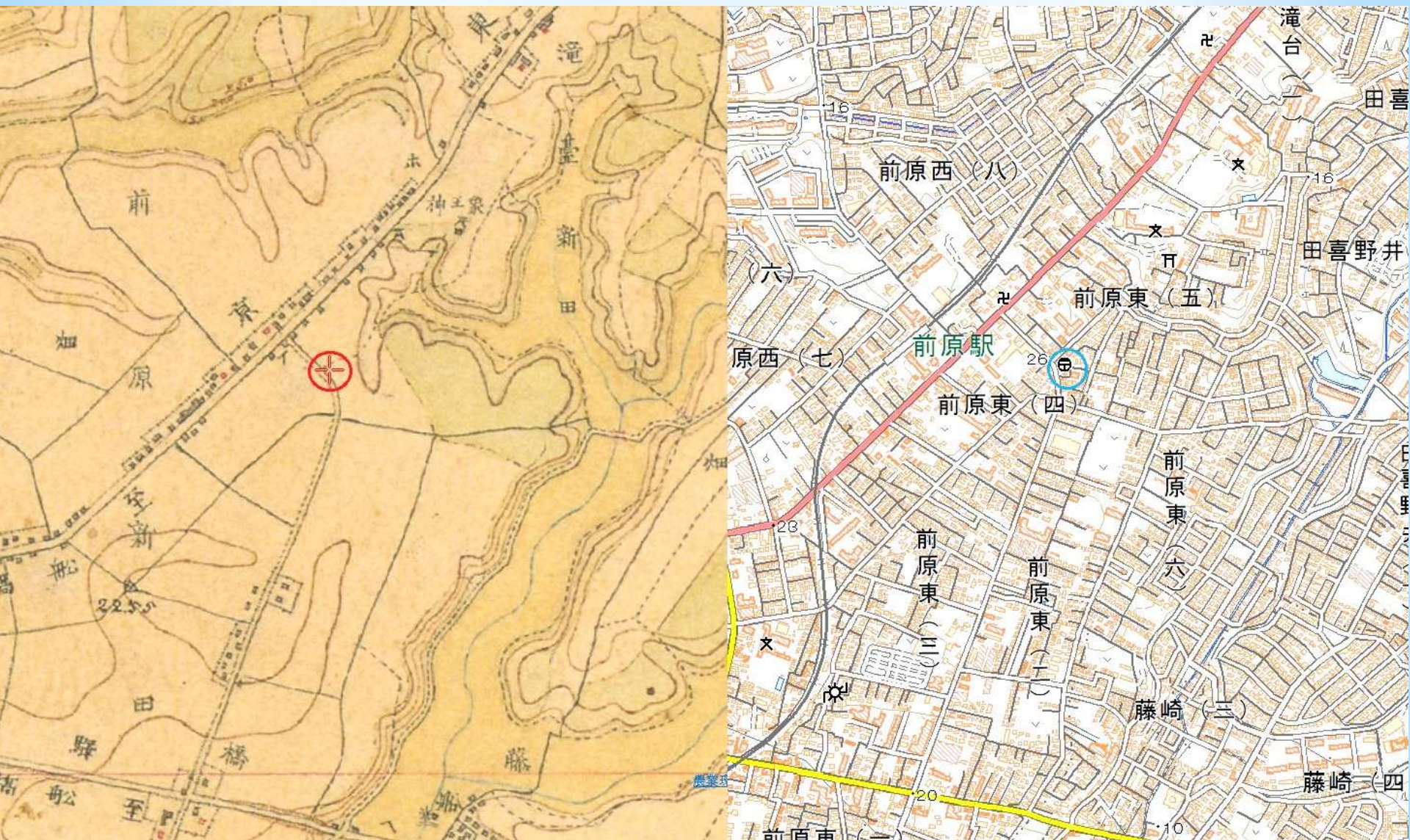
# 前原の庚申塚の位置1 by.Googleマップ



## 前原東五丁目の百庚申が並ぶ風景 Ⅱ



前原の庚申塚の位置2 「迅速測図」と現在の地図との比較 by.歴史的農業環境閲覧システム



## 前原東五丁目の百庚申が並ぶ風景 Ⅲ



右から前列:

青面金剛像庚申塔

- ・享保18年(1733)
- ・延享4年(1747)
- ・享保19年(1734)

後列:

- ・文字庚申塔 天保5年(1834)
- ・二十三夜塔 文政10年(1828)
- ・文字庚申塔 天保2年(1831)

下:無年号の「百庚申」塔約70基



馬頭観音塔  
明治30年



## 北総の百庚申探訪 I



柏市布瀬路傍の百庚申 文政7年(1824)～明治8年(1875)



印西市浦部の百庚申 天保10年(1839)



## 北総の百庚申探訪 II



鎌ヶ谷市大仏・八幡神社 天保12～天保13(1841～1842)



### 北総の百庚申探訪 Ⅲ



印西市「武西の百庚申 武西学園台3丁目 文久3年(1863)

## 北総の百庚申探訪 IV

印西市砂田の百庚申 小林・猿田彦神社  
天保6年(1832)～明治元年(1866)



砂田庚申堂内  
寛文11年(1671)

## 北総の百庚申探訪 V

栄町上町の百庚申 慶応2年(1866)



## 北総の百庚申探訪 VI



印西市松虫の百庚申  
文政12年(1829)  
路傍2か所に再設置



## 北総の百庚申探訪 VI-2



ニュータウン開発前の松虫の百庚申

## 北総の百庚申探訪 VII

### 印西市笠神笠神社の百庚申



上:左側(北側)の列の奥には慶應二年塔が並ぶ



慶應三年塔が並ぶ右側(南側)の列



慶應三年塔が並ぶ右側(南側)の列

百庚申の像塔



百庚申 (慶應元年)



(慶應2年)



(慶應3年)





左側(北側)の列の手前には慶應元年塔が並ぶ



### 笠神社の百庚申の内訳

- ・慶應元年 = 11基 (像塔2基: 文字塔9基)
  - ・慶應2年 = 36基 (像塔7基: 文字塔29基)
  - ・慶應3年 = 30基 (像塔7基: 文字塔23基)
  - ・年不明 = 18基 (像塔1基: 文字塔17基)
- 計95基
- ・残欠 = 5基 (像塔1基: 文字塔4基)
- 総計 = 100基 (像塔18基: 文字塔82基) = 1:4

## 北総の百庚申探訪 VII-4

### 笠神社の百庚申以外の庚申塔



享保7年(1722)の青面金剛像塔



慶應3年(1867)の百庚申完成記念の庚申塔



その他の文字庚申塔



百庚申の残欠



明治16年(1883)銘の庚申塔と阿夫利神社塔



明治33年(1900)銘の文字塔と像塔

北総の百庚申探訪 VIII-2 蘓波鷹神社の百庚申



昭和10年(1935)銘の像塔3基と、無年銘で文字塔30基の計33基

## 北総の百庚申探訪 VIII-3

### 蘆波鷹神社の百庚申



明治33年(1900)銘の文字塔と像塔



享保18(1733)年の庚申塔  
「南無青面金剛尊／同行三十人」銘



昭和10年(1935)銘の文字塔と像塔



百庚申 (明治 16 年)



(明治 33 年)



(昭和 10 年)

## 北総の百庚申探訪 Ⅸ 自然石の百庚申



匝瑳市大浦・路傍の飯岡石の百庚申



流山市東福寺の自然石百庚申



東庄町宇賀神社飯岡石の百庚申

## 北総の百庚申探訪 X 一石百庚申



印西市松崎・火皇子神社  
「庚申百社参詣供養塔」銘  
文化13年(1816)  
参詣型一石百庚申



八千代市麦丸台・庚申塚  
「一百青面金剛王」  
文化12年(1815)  
百体型一石百庚申



## 「百庚申」造立の意図

## 「百」や「万」などの数量信仰



「光明真言百萬遍塔」  
文化9年(1812)印西市中根



「一億供養塔」寛政11年(1799)白井市十余一三叉路  
「南無阿弥陀佛」の名号、右面に「大もりみち」、左面に「ふさむらみち」、裏面に「寛政十一年／一億供養塔／四月十有五日」、台石に46か村、各村「村中」「講中」「助念佛」や1～190人の講員人数が記された壮大な供養塔。



百堂供養塔 元禄13年(1700)利根町徳満寺  
「奉造立百堂供養二世安楽所」銘  
「百堂供養」とは、農閑期に近隣の祀堂など百の堂宇を巡拝し念仏を唱える行事で、これは100カ所巡拝した記念に建てた供養塔



# 「百庚申」造立の意図 多石建立&多像彫刻の例



東総の路傍の道祖神群



八千代市吉橋貞福寺の  
四国八十八ヶ所石塔群



百番供養塔 寛政4年(1792)  
成田市芦田証明寺跡  
「奉納西国秩父坂東百番供養塔」

# 百体型一石百庚申



群馬県倉淵  
百体青面金剛塔  
寛政六年銘(1792)



長野県野底「奉請一百體庚申」  
百書体庚申塔  
安政7年銘(1860)



群馬県総社町御霊神社  
「猿田彦大神」百書体庚申塔  
万延元年(1860)

## 一石百庚申塔(「百庚申」銘型)と、千庚申塔



足利市大前町 入東 庚申山



栃木県佐野市田沼町



白井市復 八幡神社前庚申塚

(いずれもHPから)

## 一石百庚申の銘から探る「百庚申」造立の意図

(北総の11例の一石百庚申を例に)

・「百」の意味は、北総地方に根強い信仰のある百万遍念仏、百堂念仏、百観音巡礼など暮らしに息づく「百」の思想による。

・石材産出のない北総では、「イシダテ」行事や八十八箇所ミニ霊場など、多塔建立が尊重される

①「庚申百箇度参大願成就」「庚申百社参詣」などの「参詣」型

＝百庚申の成立は、ミニ霊場「百庚申参り」の成立

(一か所で「百庚申参り」ができ、十か所回ると「千庚申参り」が可能。野田市内には「千庚申」「万庚申」銘がある。)

②青面金剛百体や「庚申」百文字を刻む「百体」型

北関東や信州で、「庚申」文字を百字刻んだ塔が幕末に流行。北総では東庄町小貝野向地共同墓地に1基のみ。

「大青面金剛百体庚申」「一百青面金剛王」銘の簡略型の塔がある。

③「百庚申」銘型

関東の「百庚申」は、自然石に単に「百庚申」とだけ刻んだ一石百庚申が一般的だが、北総では匝瑳市高野の一例のみ。

白井市復の「奉納百庚申塔」、野田市中里との東金野井の「百庚申供養塔」銘の百庚申塔があるが、これらを含め一石百庚申の数は少ない。

石塔数が多くて迫力のある多石百庚申や、野田市の事例のような「千庚申」銘の方が、有難味があるように思われたためか、一石百庚申は、北総ではあまり普及しなかった。